

公害資料

No. 82

横浜市公害対策局

横浜市沿岸域における 環境変化と魚類相

昭和54年12月

貸し出し用

公害対策局

水質課

横浜市公害対策局

正 誤 表

ページ	行	誤	正
2,	8行目	1976年11から	1976年11月から
#,	13 #	表2-A-9	表II-A-1
#,	26 #	小型, 地曳網	小型地曳網
11,	21 #	岩壁域	岩壁域
18,	表III-A-1中	トボヌメリ	トビヌメリ
23,	3行目	既当する	該当する
42,	21 #	ほぼ同じ	ほぼ同じ
43,	2 #	コトヒナ	コトヒキ
#,	12 #	ボウアオノリ	ボウアオノリ
67,	12 #	フ出後	フ化後
70,	29 #	産着卵る発見	産着卵を発見
73,	11 #	漁獲際	漁獲の際
85,	30 #	と同時体長	同時に体長
86,	8~9行目の間	39	39, メジナ
99,	28~29行目	下げ潮流流	下げ潮流
155,	19行目	SCIENO	SCIENCE
156,	14 #	東海大学海洋生物教室	東邦大学海洋生物教室
157,	18 #	#	#

まえがき

横浜市公害対策局と「横浜市内生物環境調査会」が共同して行なった市内生物相調査の結果を昭和53年4月に「横浜の川と海の生物」として報告した。この調査は、横浜市が昭和49年度に生物指標を作成したが、その後の水域の変化の把握と調査内容の充実を図って実施したものである。

本報告書は、先の報告書の中で予報としてまとめられた「横浜市沿岸域の環境変化と魚類相」の最終調査報告である。沿岸域の魚類相調査は、中間報告以後、継続して行なわれ、貴重な知見が数多く集積された。そこで前回まとめられた「根岸湾周辺の底生魚類相」の結果とあわせて解析を加えここに報告することになった。

今まで、横浜市沿岸域の魚類相について詳細な調査報告がなされたことがなく、広く市民に市内沿岸域の魚類相について関心を深めていただく上で、また水質環境目標「魚がすみ、釣りや水遊びがたのしめる海や川を、市民の手にとりもどせる」の達成に向けて、その施策を検討する上での貴重な資料としたい。

横浜市沿岸域における環境変化と魚類相

岩田明久・酒井敬一・細谷誠一

The Fish Fauna and the Environmental Disruption
in the Coastal Region of Yokohama City

Akihisa IWATA,^{*} Keiichi SAKAI,^{*} Seiichi HOSOYA^{**}

目 次

I. はじめに	1
II. 調査方法および調査概況	2
A. 材料および方法	2
1. 調査場所	2
2. 調査方法	2
B. 調査海域の環境	9
1. 地 形	9
2. 底 質	9
3. 塩分濃度	9
4. 水 温	11
III. 結 果	15
A. 根岸湾口域	15
1. 個体数・重量・種数の月変化	15
2. 各種採集状況	16
3. 底生魚類群集	21
B. 浅海・感潮域	23
1. 区域別出現状況	23
2. 投網による採集個体数	28
3. 潜水観察結果	28
4. 塩分濃度と出現魚種との関係	36
C. 胃内容物	36

IV. 論 議 1. 魚類のhabitat利用	67
A. 産 卵	67
B. 成長と移動	80
C. habitat利用からみたタイプ分け	131
V. 論 議 2. 環境変化と魚類相	133
A. 東京湾奥部の魚類相比較	133
1. 横浜市沿岸の岸壁域	136
2. 東京湾奥部の干潟域	136
B. 横浜市沿岸域の現在と過去	143
1. 根岸湾口域周辺	143
2. 金沢湾周辺	146
VI. 要 約	151
VII. 謝 辞	153
VIII. 参考文献	155
IX. 付 表	159
X. 図版目録および図版	221

* 東京水産大学水産資源学講座, Laboratory of Fishery Biology, Tokyo
University of Fisheries.

** " 環境測定工学講座, Laboratory of Environmental Instrumentation
Engineering, T. U. F.